



写真1



写真2

アフガニスタン 女子教育支援

人道危機の続くアフガニスタンでは、貧困により食料の量や回数を減らすなど依然として厳しい状況が続きます。やむを得ず働くために学校に行けないケースもあり、ユネスコによると2024年時点で213万人以上の初等教育就学年齢の子どもが学校に通っていません。その60%は女の子です。

また、女子は中等教育以上を実質的に受けられない状況にあり、初等教育は貴重な学びの機会となっています。水衛生施設や校舎の未整備、教員の質の課題、女子教育の重要性への理解不足、衛生知識の不足と習慣の不徹底による下痢など、複数の要因が女子児童の就学をより困難にしています。

人口の3分の2が25歳未満のアフガニスタンでは、42%の若者が教育・就労・職業訓練のいずれにも参加しておらず、その68%は女子

というデータもあります。将来自立を果たし、貧困の連鎖に巻き込まれないための基盤として、教育環境の改善は不可欠です。

教育環境が最も厳しく、パキスタンからの帰還民の学齢期の子ども数も最も多いナンガルハル県で、ジェンは女子教育支援を継続しています。トイレや手洗い場の整備、石けんの配布、衛生教育の実施により、衛生環境と知識の向上を図っています。

現地の文化や宗教的規範に沿いながら、対話を通じて女子教育の重要性を伝え、就学を促進。教員の質向上を目的に、基礎的な教授法の研修も実施しています。

写真1は対象校のひとつで、衛生プロモーターが衛生啓発を行っている場面です。体や衣服を清潔に保つこと、爪を切ることなどの個人衛生や、教室やトイレの清掃、ゴミ処理、安全な飲料水の使用といった環境衛生に

ついて伝えていきます。特に、手洗いの方法とタイミングは強調し、家庭や学校で実践できるように実演しています。こうしたわずかな衛生的な知識を体得することで、勉強にも仕事にも集中できる健康状態を維持できるようなことを目指しています。

また、経済的理由で文房具を買えず通学できない子どももいるため、新規就学児童には、ノート、ボールペン、定規などの「就学キット」を配布しています(写真2)。この支援は2005年から継続しており、キットがきっかけで就学が促進され、継続して通う姿を見て親が文房具購入の重要性を認識する例も度々あります。

ジェンは、子どもたちが貧困や紛争のない社会で「自分で明日を選べる」という自立への地道な一歩を支えています。

VOICE

学校に通えるようになり、人生が大きくなりました。

数年間、パキスタンのペンシャールで難民として暮らしていた14歳のムンタハさんは、経済的困難から学校に通えない日々を送っていました。

現在はジェンが支援する小学校の1年生として学んでいます。アフガニスタンに戻ってきたとき、家族は全てを失っていて、お父さんには仕事がありませんでした。文房具を買ってお金もなく、学校に行けませんでした。でもジェンの支援で文房具を受け取り、入学できました。私の人生は大きく変わりました。宿題も勉強もできて、今は毎日時間通りに学校に行き、学んでいます。



教育支援のその先に



ジェンは、設立当初から多様な支援事業を手掛けてきた。心のケアと自立を支える事業の中でも、教育支援は外せない。

教育支援と言うと、読み書きそろばんを学べるように学校を建てたり修復したり、教師の育成や文房具の配布などによって学びの環境を整えることと考えられるかもしれない。ジェンがその他の衛生知識やコミュニティの協力体制などについても学ぶ機会を提供しているのは、このニュースレターを読んでいる方々にご存じだろう。

識字があれば自分の意見をまとめて伝えられるようになる。複雑な概念も理解しやすくなるし、自分がやりたいことや受け入れたくないことを伝えやすくなる。AならばB、BならばCといった物事の関連も認識し易くなる。となると識字によって培われた思考力は戦争を止められるのだろうか？

ジェンが活動を開始した1994年の旧ユーゴスラビアは熾烈な戦闘の中にあつた。識字があり、暴力も殺戮もしてはいけないと学んで育ってきた善良な顔見知りや元同級生同士が銃を向けあつた。

ひとたび戦争が始まったら、ペンの力は限りなく弱い。『誰かを守るために』という言葉の前に一人ひとりとはとても無力になる。だからこそ、私たちは、過去の全ての戦争から学び、どの様なことが起きた後、何が起こり、一つひとつの分岐点をどの様に選んで戦争に向かったのかを知ることが求められる。どれほど悲惨なことが起きたのかを知り、それを自らに当てはめて想像する力が試される。起きてしまったら止められない戦争を起こさないために、知る力、考える力、想像する力を養うためにこそ、ペンの力が求められている。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

普通の暮らしを取り戻そうと努力する人びとを支える **ジェンの活動をご支援ください**

ジェンLINE公式アカウントとお友だちになりませんか？



お友だちはこちらから

ジェンでは、LINE公式アカウントを通じて、現場での支援活動の様子やイベント情報など、最新の情報をお届けしています。ぜひお友だち登録して、ジェンの活動や支援先の状況に触れてみませんか？より多くの方に、世界で起きていることを知っていただけたらと思っています。

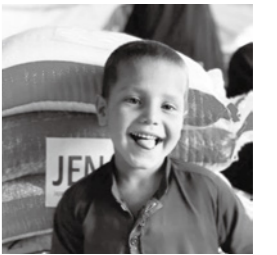


PayPayでもご寄付いただけます



ネット募金はこちらから

ジェンでは、Yahoo! JAPAN ネット募金を通じて、PayPayでのご寄付も受け付けています。厳しい暮らしの中にある人びとの自立を支え、紛争や貧困に巻き込まれる人びとがいる世界を変えていくことを目指して、活動を続けています。電子マネーでのご支援も、ぜひご活用ください。



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。

封筒に記載されてる住所について

現在のジェンの所在地は差出人選付先に記載されている住所となります。皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305
TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/> Japan.Emergency.Ngo
NPO JEN 検索 @NGO.JEN @ngo.jen

このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。





越冬物資と食糧配布の様子

※本事業は、シャバンフラットフォームからの助成金や皆さまからのジェンへの寄付金により実施しています。

困難な状況にある方々がさらなる貧困に陥ることのないよう、ジェンは地域の人びとに寄り添いながら、これからも活動を続けていきます。

パキスタンでは昨年8月中旬以降からの豪雨や鉄砲水、土砂崩れにより、全国的に甚大な被害が発生しました。特にハイバル・パフトウンハー州では全国の犠牲者の半数が集中し、157万人が被災、そのうち60万人が支援を必要としています。

北部の山岳地帯の中でも被害が深刻な地域のひとつです。冬には夜間の気温が氷点下になることもあるため、防寒のための衣類や物資は命をつなぐために欠かせません。加えて、食糧不足も深刻であることが明らかになりました。

厳しい状況にある500世帯を個別訪問し、実際の状況を確認したうえで、ジェンは越冬物資と食糧を届ける緊急支援を実施しました。配布した食糧には、米、小麦、豆、油のほか、現地の食文化に合わせたデザートなども含まれています。調査では、食糧を受け取った全ての方が「食事の質と量が改善した」と答えています。

パキスタン 越冬・食糧の緊急支援 山間部の村で起きた洪水 — 食糧や越冬物資を届け、 人びとの一歩を支える



インタビューに答える
タズキラさん(左)

ふたりは困難な中、支え合いながら未来への道を歩み始めています。

VOICE

**私は
たった独りでした**
7歳で洪水被災者になった
タズキラさんの声

ベシヨナイ村に暮らす7歳のタズキラさんも、ジェンの支援を受けた被災者のひとりです。洪水が村を襲ったとき、彼女は教室で授業を受けていました。災害の発生を知った先生たちは、生徒の避難に奔走しました。学校に残ったタズキラさんは、自宅の状況を知りませんでした。

「水が引いてから、両親やきょうだいが皆流されたことを知りました。家族は誰もおらず、私はたった独りになりました。私の心は打ち砕かれました」

タズキラさんのおじは、自身の家族を失い深い悲しみに暮れながらも、身内を必死に探し続けました。そして唯一の生存者であるタズキラさんを見つけた時、「あなたはもう独りじゃないよ」と声をかけたそうです。

INFORMATION

ジェンへの
寄付付きで
発売中!



2026年カレンダー『まなざし。世界のすみずみと出会う』

WORLD FESTIVAL Inc.制作の2026年カレンダー『まなざし。世界のすみずみと出会う』は、2025年に誕生したストーリーカレンダーシリーズの第2弾。この度「第77回全国カレンダー展」にてダブル受賞(銀賞ほか)したオリジナル作品をベースにした一般販売版が、ジェンへの寄付付きプランで発売されました。世界各国で出会った人びとの「まなざし」にフォーカスし、その先に広がる暮らしや日常が感じられるカレンダーです。ジェンが支援を続けるパキスタンの現場の写真に加えストーリーも掲載。さらに動画視聴用QRコードから各国へのバーチャルトリップも楽しめます。ぜひこのチャリティ企画に参加して、世界のすみずみにある美しさに出会いませんか。

詳細は
こちらから



LINE
登録は
こちらから



©WORLD FESTIVAL Inc. Yuki Kondo
©JEN

予告 パキスタンの動画上映イベントを開催

2022年の大洪水で甚大な被害を受けたパキスタン・シンド州ダドゥ郡で、ジェンは食糧、農業、教育の各分野で支援を続けてきました。この度、ジェンの活動の様子や現地の暮らしのリアルを伝える動画の上映会を開催予定です。WORLD FESTIVAL Inc.制作の映像は、映画のような臨場感。当日はトークイベントも計画中。日程等決まりましたらSNSで告知しますのでジェンのSNSにご登録をお願いします。



視察先でインタビューを行うアズマツ



2011年に支援した小学校で学ぶ女子児童

2025年夏、当時の事業地を、現地事業責任者でパキスタン事務所代表のアズマツが訪問しました。2021年の政変後、初めての訪問で、かつて支援を行った地域は今、どのように変わったのか話を聞きました。

●現地の様子を
どう感じましたか。

2019年に訪れたときと比べると、治安は大きく改善されたと感じました。以前は人が集まる場所は危険とされ、移動も昼間を避ける必要がありましたが、

アフガニスタン パルワン県 教育支援 10年前の支援校を訪ねて — 過去から現在へ紡がれる自立の道

ジェンは2002年から2017年にかけて、アフガニスタン中部のパルワン県で教育支援を行いました。旧ソ連軍侵攻や長年にわたる内戦の影響で、地域の荒廃は深刻でした。基礎的な社会インフラが不足し、多くの子もたちが学ぶ機会を奪われていました。こうした状況の中、都市部と農村部の両方で教育環境の整備に取り組みました。女子校の建設や学校運営の支援を通じて、子どもたちが安心して学べる場をつくってきました。



インタビューに
答える
アズマツ

今回は日中でも移動でき、広場やレストランにも多くの人が集まっていました。

パルワン県では橋や道路、病院、商業地区の建物などのインフラも整備され、街全体が発展している印象を受けました。一方で、2019年の訪問時と比べて街中で女性の姿をほとんど見かけなかったことは、強く印象に残っています。

●かつてジェンが支援した 学校はどうでしたか。

今回は2011年と2017年に支援した女子小学校2校を訪問しました。先生方はジェンのことを覚えていて、とても温かく迎えてくれました。校舎はきれいに維持管理され、生徒も多く、ジェンの事業で行った手洗いの励行なども、今なおきちんと実践されていました。

保護者会の活動も活発で、地域の人たちが学校を大切にしていることが伝わってきました。10年経ってもなお支援が、今も地域に根付いていることを実感しました。

●女子教育をめぐる
現状については、どのように受け止めましたか。

正直、複雑な思いを抱きました。現在、アフガニスタンでは女子が教育を受けられるのは小学6年生までで、それ以降はオンラインを含め、どのような形でも学ぶことが認められていません。

訪問先の学校で、児童たちが一生懸命に書いたノートを見せてもらいました。そこから、彼女たちが非常に優秀で、学ぶことに喜びを感じていることが伝わってきました。だからこそ、「あと数年で学ばなくなる」という現実を思うと、とてもつらい気持ちになりました。私自身、娘がいることもあり、胸が痛みました。

●この状況に対し、国際社会はどのように関わっていくべきだと考えますか。

現在の政権を運営する全ての人々が、女子教育の禁止に一律に賛成しているわけではありません。私は今回、政権側の関係者とも多く話をしましたが、誰もが国の将来を真剣に考え、対話に応じてくれました。意見の隔たりが大きく

VOICE

**ジェンが支援した
学校で学び
その学校の教師に
なりました**
教育支援を受けた
アリシアさんの声

アリシアさんはジェンがパルワン県で2011年に整備した学校で学び、現在はその学校の教師として働いています。当時生物学の教師だった村の女性が影響を受け、自身も生物学が好きになったと語るアリシアさん。現在は学校管理委員会にも参加し、自ら費用を工面して校内に水タンクを設置するなど、子どもたちの学びを支えています。ぜひ動画をご覧ください。



インタビュー
動画を見る



でも、対話が続けることが重要です。日本をはじめとする国際社会には、アフガニスタンを忘れず、特に女の子たちが学ぶ機会を回復できるよう支援と働きかけを続けてほしいと思います。

*
ジェンは、紛争や貧困によって子どもたちの学びの機会が奪われないよう、支え続けていきます。